――チャンドラさん自身は、白糠に来てプラスになっていますか。

チャンドラさん／これまでは上級者レベルの選手の指導しかしてきませんでしたが、ここには初級者から上級者までいますので、指導者としてもいい経験になっています。正直、レベルがバラバラなので、教えるのは大変です。いい選手というのは、教えていないことも自分で考えてやったり、一度教えたことをきちんと実行できる選手です。そうやって一生懸命頑張っている選手は、試合で負けたとしても、また次の試合も見たいと思いますし、応援したくなります。

――活動2年目を迎えるにあたっての目標は。

チャンドラさん／2年目の目標は、指導している子どもたちのさらなるスキルアップです。私には、これまでの経験があるので、子どもたち一人一人に対して指導するポイントが、はっきりと分かります。後はそれをどう伝えるかが難しいので、日本語の勉強を引き続き行っていきます。

中学生は全道大会でベスト4を目指して指導して行きます。小学生は、すでに全国大会に出場している子もいますので、こちらもベスト4以上を目指して、指導して行きたいと思っています。

可能であれば、白糠町のトップレベルの選手を日本各地のジュニアオープン大会へ参加させてみたいと思っています。また、インドネシアの大会へも、いつか参加できるようにレベルを上げて行きたいと思っています。私のこれまでの経験を、若いアスリートたちと共有できたらうれしいです。

生徒の卒業とともに部員がいなくなり休部となっていた茶路中学校バドミントン部。今年の4月に1年生2人が加入し、活動を再開しました。今回は、新入部員の2人にお話を伺いました。

――バドミントンをやろうと思った理由は何ですか。

細谷洋樹さん（以下、細谷さん）／以前は水泳を習っていたのですが、体調を崩して辞めてしまいました。それからはスポーツを習っていませんでしたが、中学生になって体を動かしたいと思うようになり、バドミントンをやることにしました。

林俊慈さん（以下、林さん）／細谷君が「バドミントンをやろう！」と誘ってくれて、楽しそうだったし、やってみようと思いました。

――実際にやってみてどうですか。

林さん／最初はきつかったけれど、やっていくうちにだんだんと体も慣れてきて、楽しいなと思うようになりました。これまで本格的にスポーツをやってこなかったので、体力がなかったのですが、バドミントンをやるようになって体力がついてきたのが分かるようになりました。バドミントンをやって良かったと思います。

細谷さん／自分のイメージしたプレーができたときや、ラリーができたときは楽しいです。

――数あるスポーツの中からバドミントンを選んだのはなぜですか。

細谷さん／チャンドラ先生に教えてもらえるというのもありますし、私の姉が3人とも茶路でバドミントンをやってきたので、自分もやってみ

茶路中学校１年生
林（はやし）　俊慈（しゅんじ）さん
2008年１月31日生まれ。
祖母、両親、兄との５人家族。
小学校１年生のころから書道を習っている。趣味はゲーム。